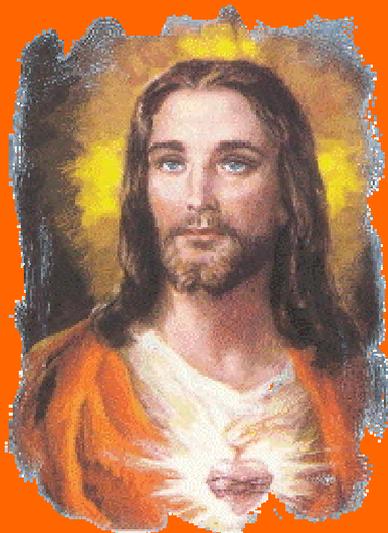
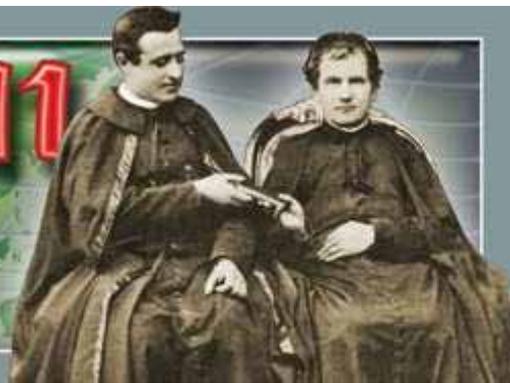


CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.30 - 2011年6月



親愛なるサレジオの宣教師、
サレジオ・ミッションの友人の
皆さん！

イエスのみ心の月に、心からの
あいさつを申し上げます。6月は、
司祭職、修道生活への召し出しの
ために祈る月です。サレジオ宣教
の日のテーマとしてサレジオのボ
ランティア活動に目を注ぐこの年、
特別なあいさつを送ります！

「ボランティア活動は、……神の
呼びかけを見いだす最良の機会
の一つです」。総長は、先の4月に
ローマで行われた7管区 (AUL,
ITS, AUS, CEP, PLS, GBR,
IRL) の宣教ボランティア活動責任者会議の終わりに、このように述べました。

「マット・グロッソ ボランティア活動」から45年たった今、大部分の管区が、宣教ボランティア活動の体験を若者に提供するようになってきました。何百人もの若者たちが毎年養成を受け、何百人もの若者たちが、世界各地のサレジオ・ミッションで一年間のボランティア活動を行ったり、短期の体験をしたりするために出かけていきます。エクアドル管区では、ボランティア活動はサレジオ会への召命の旅の第一歩になっています。アフリカ、アメリカ、アジアの諸管区にとって、ボランティアはプロジェクト・ヨーロッパに参加する機会になります。多くの若者たちが、ヨーロッパの国々で青少年司牧活動を支える柱となって、母国に戻るからです。ボランティアを受け入れる共同体にとっては、ボランティア活動は、24時間、若者たちに生活を開放し、サレジオ会カリスマを分かち合う機会になります。

ボランティア活動を通して召命の道を歩みだした実に多くの若いサレジオ会員のあかしに耳を傾けると、感動を覚えます！ (www.sdb.org/AGORA)

さらに多くのサレジオ会共同体がボランティアに開かれるよう、祈りましょう！ さらに多くのサレジオ会員が、若いボランティアたちと共に歩むために「遠回りをする」ことを覚えるよう、祈りましょう！ 若者がすばらしい宣教師になれることを信じましょう！

アメリカの新福音化のため、 すべての民にみことばを告げる宣教師を

*訳注:ここで言う「アメリカ」はアメリカ大陸全体を指します。

イエスのみ名は、人類のおびただしい数の人々に、そしてアメリカの社会のさまざまな所で、いまだに知られていません。まだ洗礼を受けていない先住民族の人々、あるいはイスラム教、仏教、ヒンズー教などを信じる、特にアジアからの移民の人々の存在を考えるだけで十分でしょう。

このことは、アメリカの教会に、すべての民への福音宣教に取り組む務めを課します。アメリカにおけるさまざまな司牧の取り組みは、新福音化の計画へと方向づけられますが、教会に来ている信徒たちの信仰を活気づけることにとどまるものではありません。まだ知られていない所でキリストを告げ知らせることに励まねばなりません。同様に、アメリカのそれぞれの教会は、大陸の境界を越えて宣教に取り組むよう、呼びかけられています。キリスト教が受け継いでいる計り知れない豊かさを、自分たちのためだけに取っておくことはできません。

アメリカの中でやるべきことがいまだに多いからといって、あるいは、基本的にユートピア的な発想からアメリカの教会が十分に成熟するまで待つべきといった理由から、大陸を越えて宣教することに取り組みないなら、それは間違いです。

アメリカ大陸が、キリストのうちに生きるその活力に見合った役割を、すべての民への宣教という偉大な務めにおいて果たすことを希望しながら、シノドスの教父たちによって示された具体的な提案に私も賛同します。「姉妹教会の間にさらに協力を育むこと。大陸の内外に宣教師(司祭、修道者、信徒)を派遣すること。宣教会を強化し、創設すること。奉献生活、観想生活の宣教の側面を促進すること。宣教の促進、養成、組織化をさらに力づけること」です。

ヨハネ・パウロ二世 「アメリカの教会」74

ボランティア活動を通して発見した 私のサレジオ会宣教師の召命

大

学を卒業後、私は偶然、ニュー・ロシェル管区のサレジオ信徒宣教プログラムの広告を目にしました。それは私にとって、ドン・ボスコとドン・ボスコのカリスマを最初に知るようになるきっかけでした。

宣教ボランティアとして出発する少し前に聞いたボナノッテは忘れられません。私たちの使命は割と単純なことなのだと聞かれました。出会う若者たちのためにキリストであること、そして若者たちのうちにキリストを見いだすことなのだと。私は何度もこの言葉を黙想しました。ポリビアのコチャバンバのシスターたちの運営する孤児院、オガル・マリア・アウジリアドーラでのことです。特に大変だったある日、しっちゃんかめっちゃんかな状況の中、今でもよくおぼえている一人の男の子が小さな絵を私にくれました。私は急いでそれを受け取ってポケットにしまいました。後になって見てみると、それはその少年が雑誌から切り抜いたイエス様の絵でした。この素朴な贈りもののことを思い巡らすとき、その日の数々の事件は結局は起きたに違いないと思うのですが、キリストがそこにおられることに私が気づいていたら、子どもたちは私の中にキリストを見ることができたかもしれません。

ポリビアも、シエラ・レオネも、本当に恵みに満ちた体験でした。私にとって、本当に生き生きとキリストが現存されるのを感じられるようになった時でした。私のサレジオ会での修道召命そのものは、2年半のあいだ宣教ボランティアとして奉仕するうちに育まれ、成長し、確かなものになりました。ボランティアの体験は、修道召命にしっかりと「はい」と応える勇気を私に与えてくれました。召命を識別しているあいだ、海外での宣教を通して主に仕えたいという望みのなかった瞬間はありませんでした。



自然と、修練期に入るとすぐに総長に手紙を書きたいという思いでいっぱいでした。総長が派遣したいと思うところへ宣教師として赴き奉仕するために、自分を捧げる趣旨の手紙です。こうして、修練期後の勉強を終えた後、私は南アフリカに派遣されました。宣教師派遣のミサの中で、当時の管区長、ジェームズ・ヒューザー神父は次のように強調しました。召命が少なくとも、「私たちの目は、ドン・ボスコの目のように、自分たちの置かれている状況を超えてもっと遠くを見つめ、より貧しく助けを必要とする人々に気づかねばなりません。そして私たちの心は、その人々を支援する方法を求めねばなりません。たとえ犠牲をはらっても。」私は、出身のSUE管区の支えと惜しみない寛大な心に感謝しきれません！

南アフリカでの実地課程の数年間、新たな体験に満ちていました。ヨハネスブルグ近郊の私たちの黙想の家で若者たちの黙想会を担当したり、青少年司牧チームのコーディネーターとして働いたりしました。私たちはさまざまなプログラムを提供していますが、主に力を入れているのは5日間の「愛は大切なもの」という黙想会です。このコースは、2001年に始まってから発展し続けている、若者の行動に変化を起こすためのプログラムです。特に、HIVウィルスの主要なキャリアとなっているだけでなく、HIV発症数が世界で最も高い国に暮らす十代の若者たちのため、このテーマを取り上げた具体的・実践的な取り組みです。

ここエルサレムで神学の勉強を続けながら、わが南アフリカ準管区に戻り、何であれそこで待っている仕事に就く日を楽しみにしています。その道のりは、私が成長するためのさまざまな体験や挑戦、機会に満ちているでしょう。聖霊が示してくださることにいつも応え、心を開いていられることができるようにと、私は祈っています。

カナダ出身、南アフリカの宣教師
ショーン・マックエウィン

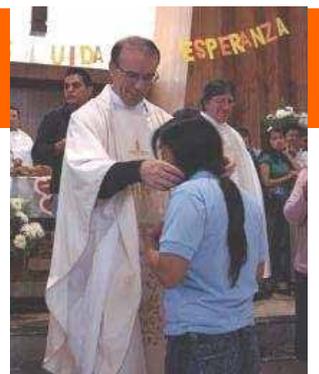
南米サウスコーン地域の
すべての宣教グループのため



サレジオ会の宣教の意向

南米サウスコーン地域（アルゼンチン、ブラジル、チリ、パラグアイ、ウルグアイ）のすべてのサレジオ会共同体が、2011年サレジオ宣教の日への貢献として、宣教グループへ参加するよう若者を招く方法を見いだしますように。

南米サウスコーン地域は、2010年5月、宣教ボランティア活動に関する最初の会議をサンパウロで開催しました。この地域の宣教活動には、「少年宣教会」や、青年が宣教ボランティアに参加できるようさまざまな宣教グループがあります。この運動がすべての管区に広がり、第26回総会文書49で呼びかけられていることがこの地域でも実現するよう、祈りましょう。イエスの愛に倣い、「宣教の精神を促し、総長には『missio ad gentes』のために人材を寛大に提供し、信徒（協働者）や家庭からも宣教師の召命を促進する。」



ご意見をお送りください。 segrgia@donboscojp.org